

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (1701400410), 法人名 (有限会社 ケアネット), 事業所名 (グループホームみやこ), 所在地 (北海道札幌市手稲区前田12条10丁目13-8), 自己評価作成日 (令和元年10月1日), 評価結果市町村受理日 (令和元年11月29日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 022 kani=tru e&JigyosyoCd=0170400410-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年11月5日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、閑静な住宅街にある2階建て1ユニットの民家に近い大きさのグループホームです。ホームの向かいには、公園があり、平日午前中は、小さいお子さんとお母さんが遊び、午後からは、小学生たちが元気に遊び回っている風景が窓から見え子供達が実際にホームに日常的に遊びに来る環境となっており交流ができています。もちろん入居者様も公園に散歩に毎日出かけ近所の人々と交流を深めています。ホームの吹き抜けの大きな窓からは、日中暖かな日差しが入り、2階にいても1階の生活音や食事を作る匂いがし、2階にいてもなんとなく人の存在を感じる事が出来、安心できる環境となっております。また、ホーム職員で考えた理念「明るくあたたかな住み慣れた環境の中で、入居者一人ひとりの想いや希望を叶え、入居者様もご家族もスタッフも笑顔でいられるホーム」を目指し、個別での対応に力を入れており、個々の希望に沿って様々な取り組みを行っております。ホームだけで生活を送るのではなく、地域や社会ともつながり合えながら当たり前の生活が送れるよう支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点は、まず、利用者一人ひとりのペースが尊重され、その思いや希望が叶えられるよう個別の要望を聞き、その実現をみていることである。1日のスケジュールが予め決められていないこともあって、「紅葉がきれい。見に行きたい」と言えば、即実行に移される。また、利用者の希望は利用者ごとに年間目標としてたてられ、馴染みの店に行く、銭湯やプールに行く、知人に会いに行く、同窓会に出席するなど、自分らしい生活を送れるよう支援を受けている。2つ目に地域の人々との交流の深さがあげられる。老人クラブでのカラオケ、子育てサロン、毎日の町内ラジオ体操、町内会の一泊旅行への参加、バーベキューなど、地域の人々との相互交流を深めている。「注文を間違えるレストラン」では、女子高校生と共に参加し、アルバイト料をもらい、働く意欲、楽しみを味わっている。3つ目に身体機能の高さがあげられる。平均介護度が3、高い人で5の人もいるが事業所内では車イスを使っていない。活動の楽しみ、アクティビティの充実を力を入れており、音楽療法の導入、積極的な外出、持てる力を発揮した買い物や食事作りなどのお手伝い、体操参加、エレベーターを使わず階段の上がり降りなどが体力の維持・向上に繋がっているとみられる。家族アンケート調査をみても、管理者・職員に対する感謝の気持ち、相談のしやすさ、笑顔、柔軟な対応などに満足し高い評価をしている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe service outcomes like staff understanding needs, user participation, and staff support.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境のもとで、ご利用者が「ゆっくり、楽しく、一緒に」生活できるように会社の理念を共有するとともに、ホーム理念として利用者様一人ひとりの思いや希望を叶えられるよう個別での取り組みを実践している。	会社理念・事業所独自の理念を玄関ホール目のにつきやすい場所に掲示し共有している。理念に謳う利用者一人ひとりの思いや希望をかなえるため、利用者ごとに年間目標を定め、職員はチームを組んで担当する利用者の目標が達成できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内との関わりの中で、老人クラブや子育てサロン、町内祭りや町内旅行にも町内の一人として参加させていただくなど、町内の方からも声をかけて頂ける関係となっている。	町内の各種行事に参加している。ホーム前の公園で毎日行われるラジオ体操には利用者も参加し、ホームのバーベキューには町内の人に来て相互交流を深めている。地域の子どもやボランティアの来訪、中学・高校生など若い世代との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で介護の事を中心となり情報発信する他、町内の子供たちが自由に出入りできるように交流を日頃からしており、子供たちが高齢者の方とのふれあいや、子供達の見守りを通し接点をもっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議での活動報告の中で、いろいろなご意見をいただき、意見交換をさせていただいている。また、交流の機会ということもありバーベキューを行うなど実践している。その他にも町内に新しくできた養護施設の職員さんにも参加していただき、地域への理解を深める場となっている。	町内会・老人クラブ・民生委員・包括支援センター・家族・児童養護施設の参加のもと定期的に開催している。意見・情報交換で出された、地域の人も参加するバーベキューの実施、虐待問題での児童相談所との連携など、利用者へのサービス向上面ばかりでなく、地域貢献にも役立っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区の担当の方には、積極的に相談を行ったり、包括支援センターの方には運営推進会議や区の事業等に参加させていただき関係性を構築できるよう努めている。	市や区の管理者連絡会議に積極的に参加している。担当者とは直接足を運び相談・報告するなど信頼・協力関係を深めている。札幌市の「区ふれあいフェスティバル」では実行委員として参画し、行政と共にケアサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止センサーを使用している方にも、ご家族含め説明を行い、必要性について確認を取りながら検討している。また、玄関を開放することなど抑制をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止指針があり、委員会を3か月毎に開催している。職員は、内部研修や外部研修に参加し、身体拘束廃止や虐待防止に努め、言葉による抑制にも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会をグループ管理者会議で検討し、虐待防止の研修等にも職員に参加してもらい、ホームの中で身体拘束・虐待について定期的にホーム内会議にて議題とし検討して、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様には日常自立支援事業をご利用いただいている。成年後見人制度についても認知症の進行による必要性もあるため社協に相談しながら検討している。また、定期的に外部・内部研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・解約・契約内容改定時に都度ご説明させて頂いた上で、疑問点等伺いご納得頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場でご意見いただくとともに、ケアプランの説明をする際や、面会時にできるだけご家族のお話を聞く機会をもうけご意見をいただいている。	利用者との会話、家族の来訪時には希望や要望を聞き取るよう努めている。家族には写真入りで「みやこだより」を毎月送付し、行事や生活状況を詳細に伝えており、玄関には意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に代表はコミュニケーションをとり、意見等を吸い上げると同時に、職員のメンタルケアの一環として第三者機関に依頼し毎月職員の精神状況をアンケート形式で答えてもらい、その都度フォローアップを行っている。また定期会議や年1回の個人面談の際に意見を聞く機会を設けている。	毎日の申し送り、毎月の職員会議、年1回の個人面談など意見を伝える機会があり、管理者は職員からの意見を尊重しようと努めている。代表者は事業所をたびたび訪問して職員の意見や提案を聞き取り、外部機関による「組織の健康診断」を受けて、職員の働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月各管理者と合同会議の機会を設け各ホームの課題や会社の方向性についての意見を求めたり、各課題について意見交換する機会を設けている。また定期的にホームに顔を出し職員とコミュニケーションを図って、ホーム内の改善点等を傾聴し、改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、ホーム内での研修の他に、外部研修への参加にも協力に勤務調整など自発的に行動するよう環境を整えている。また、年1回の自己評価の実施を行い、課題や目標を定め日頃から取り組むよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホームの団体や管理者連絡会・地域の寄合、区域内での多業種などと連携する取り組みなどに積極的に参加し交流に努めている。職員間に関しては、同社内での交流会などを利用している。また、外部研修等で交流を図るよう伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人ご家族、利用していた他事業所と面談し、不安なことや要望を伺い、出来るだけ生活していた環境を見せてもらうことで、少しでもその方の事を理解し、安心して頂けるよう関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事や困り事、これからの生活に対する不安や要望を伺い、ご家族の心身の負担が軽減されるような関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時から、アセスメントを行い必要な支援を見極め、その方を取り巻く社会資源を含め必要なサービスの組み立てを行っている。また、実際にサービスを利用して改善点がある場合は速やかに変更等を行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の暮らしを共に支える物とし、一緒に過ごす時間を大切にする意識が根付いている。一人一人の要望を引き出すよう関わりを深め、希望に合わせた個別対応に取り組んでいる。その結果、馴染みの関係性の継続や、地域社会との関わりを出来るだけ実現で来るよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が日頃から何気なく話しかけられる雰囲気づくりに努め、気軽に話しかけてもらえるような関係性づくりに努めている。変化があればこまめに報告し一緒に課題を解決する関係を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や、友人・知人、馴染みのお店等、本人が長年培ってきた馴染みの関係が途切れないように支援させていただいている。	知人・友人の来訪も多く、来訪時には居間・居室でゆっくりと寛げるよう配慮している。ドライブ中に思い出の場所に立ち寄り、初詣でや知人を訪問、同窓会出席、馴染みの銭湯やプールへ定期的に行くなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係はもちろん、孤立しそうな人、関係性が余りよくない方も、職員が間に入り潤滑油の役割をし共同生活を営んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人・ご家族の相談等に乗らせていただくことにより、環境変化によるダメージの軽減に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。ご家族や馴染みの方からも好みや趣味や興味のあることを把握することで、その方の立場に立った支援を提供する。具体的には、同窓会の付添、町内一泊旅行の実現、懐かしい所、物を観に探しに行く。アルバイトの実現等	日々の会話の中から思いや希望を聞き取り、その実現に努めている。「紅葉がきれい」などの話があるとその日に見に行くなど即実行に移している。即実行が難しい時にも、職員皆で検討を重ね数々の希望を実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時やその後も生活歴や暮らし方、考え方をご本人・ご家族・知人等から出来るだけ会話の中からさりげなく把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランをはじめ、経過記録や申し送り、ケア会議などを通して今のご本人の状況を、体調面も含め見極め、出来るだけ持っている力を発揮できるよう現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	いかにご本人の要望をくみ取れるかを考えるため、年間等して利用者様の各目標を設定し、チーム分けして目標達成のための取り組みを考えることに加え、ケア会議の中で職員間で話し合い意見交換を行っている。また、必ず計画更新時・変更時には、ご本人・ご家族からの意見や要望を聞き取り生かしている。	3か月ごとにモニタリングを行い、全職員の参加するケア会議で意見を出し合い、利用者一人ひとりの思いや希望、家族の意見や要望が実現できるよう検討を重ね介護計画を作成している。介護計画には医師、薬剤師、訪問看護師の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、基本的な記録(食事量・バイタル・排泄など)の他に、本人とのやり取りの様子がわかるような記録の記入に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望が見受けられた時には、職員の働き方の調整をして要望を叶えられるように臨機応変に対応するよう努めている。突発な買い物や外出など		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームのみで生活するのではなく、積極的に外に出かける機会をもうけている。ただ、目的地に車に乗っていただくだけではなく本人の残されている能力を発揮できるよう公共交通機関を利用したり、地域サロンやアルバイトなど行いながら地域とつながり過ごすことが出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を伺いながら、適切な医療を受けることができるよう、かかりつけ医と協力関係を構築し、24時間医師へ連絡するようにと病院側から指示を頂いており状況に困ったときには気軽に相談して下さる体制がある。	これまでのかかりつけ医の継続受診は家族対応が基本となっているが、職員が同行したり、職員で対応するなどの受診支援を行っている。訪問診療は月2回だが協力医はほぼ毎日往診に見えており、訪問看護師は週1回、薬局薬剤師の月1回の来訪など安心できる医療体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携とることにより、日常的な健康チェックを始め、健康相談や担当医との相談への助言など頂きながら、生活を支えていただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院機関、ご家族と出来るだけ密に連携を図り、ご本人の入院時のストレスケアや、退院した後のホームの生活を共に検討していただけるよう協働している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでい	事前に、ご本人・ご家族の終末期の要望を聞き終末期の考え方を共有する。また、実際に終末期に差し掛かるうとした際には、あくまでも事業所内で出来る範囲の事柄を伝え上で、ホームと病院など双方の長所・短所を伝え検討していただくようにしている。	契約時に「重度化に係る指針」を説明し同意を得ている。状況が変化した場合には、家族、医師、事業者で話し合い、最善の方法がとれるように支援している。看取りはこれまでにないが、法人内施設で数名が経験しており、要望があれば対応できる体制を築いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度程度研修は実施しているが、実践にはまだ不十分なので今後も継続的に研修等が必要。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を運営推進会議を利用して実施している。また、水害や地震等についても会議などで検討をしホーム独自に避難場所などを想定して話し合いを設けている。	年2回昼夜の火災を想定した訓練を実施しており、うち、1回は地域住民参加のもと消防署の指導を受けている。浸水想定地域には含まれていないが水害対応のイメージ訓練を行っている。水・食糧、暖房・停電対策用品の備蓄を行っているが、更なる充実を予定している。	火災・水害対策の訓練は行っているが、地震対策の訓練は未実施なので、いざという時、利用者が自分の身を守ることができるよう地震に対する訓練の実施を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴を尊重すると共に、人生の先輩として入居者の皆様には誇りを持って指導や助言をいただき、私たちスタッフも成長している。	契約時に利用者の権利として意思の尊重、プライバシーの保護などを重要事項に記載し説明しており、人生の先輩として敬う言葉掛けに配慮している。個人台帳類は事務所の鍵のかかる書庫に保管・管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思確認だけでなく、日常の何気ない会話の中らご本人の希望や意見をくみ取っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や、会話の中でしたいこと・行きたいことなどがあったときは、臨機応変に外出(買い物、外食、ドライブ、理美容室等)やレクなども行っている。入浴は要望時に応えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容室や入居前からの馴染みの美容室に出かける等、各々に合わせ、個別に対応している。また、外出先に合わせた洋服の助言やお化粧品支援等にも力を入れており、希望者には化粧品や洋服の買い物は同行し、お手伝いさせていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に食事のメニューは決めておらず、買物の際や、冷蔵庫にあるもので利用者様と相談しながら食事を作るようにしている。また、1品を利用者様に作ってもらうよう促して関わっていただいている。外食の機会も多く持ち、好みの物を召し上がれる機会を設けている。	利用者の食べたいもの、季節や旬のものを一緒に買い、一緒に作っている。全員での外食、バーベキュー、流しソーメン、居酒屋風にして焼鳥食、個別の外食、畑で育てた大根の練漬けなど工夫して職員と共に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を食事毎にチェックし、不足がちな場合代用品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後の口腔ケア、義歯洗浄を補助し、訪問歯科がその方の状態に合わせて口腔内チェック・指導を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は、利用者様のタイミングを見計らい排泄の補助・介助を行っている。できるだけオムツに頼ることなく自力排泄できるよう声掛けにも力を入れている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、動作や表情を見計らい声掛けてトイレでの自立排泄に向け支援している。退院時のリハビリパンツ利用者には早く布パンツに戻れるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に、乳製品の提供や毎日のラジオ体操・散歩等で、自然排便を促している。どうしても便秘がちの方には、腹部・肛門マッサージで対応しどうしても排泄困難な時のみ薬を先生の指示で使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、3日に1回のタイミングで、入浴を促しているが、どうしても入浴したいなどの要望が有る際は臨機応変に対応している。また、馴染みの銭湯などにも定期的にお連れしている。	週2～3回の入浴を基本としており、安全・安心のため二人介助にも対応している。数種類の入浴剤を揃え、マンツーマンで会話を楽しんだり歌を歌うなど寛いだ入浴となるよう支援している。皆で温泉に行く計画もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通して日課等は、決めておらずその時に人が集まればレクを行ったり、台所に立ったりと時間が自由なので、休息や就寝についてもある程度利用者様のタイミングで生活されている。また、年々歳を重ねることで体力低下もみられるため、状況を見て声掛け誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携を図っており、薬を毎食シートに張ってもらい都度提供前に、職員が用意し服薬時には、2人で薬を確認し服薬していただいている。薬の変更や、在庫管理に関しても病院・薬局・ホームで情報共有をし適切な薬の処方に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味・趣向を把握し、個別・団体での活動をわけて、みなさんがそれぞれ楽しんでいただけるよう企画している。例)ショッピング、外食、誕生会、外出等		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な散歩や、買い物外出の他に、個別の買い物(衣類等)や外食、ドライブなど外出の企画を行い出来るだけ外に出る機会を設けている	全員の参加する外出行事のほか、一人ひとりの思いや希望に添えるよう個別の外出に力を入れており、馴染みの美容院、買い物、趣味の詩吟の会、プール、コンサート、子育てサロン、一泊旅行など様々な行事への参加を支援している。また、「行き先を間違えるかもしれないツアー」を企画し、その人のふるさとを函館まで案内してもらうなど職員の面白いアイデアが活かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の状況に合わせて少額お小遣いを所持し買い物の際には、自分で選んで買い物をしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎月、職員からお手紙を書かせていただきその月の様子をお伝えしている。また、ご家族とお話したいと言われる方に関しては、ご家族に了承をとり定期的に電話でお話できる環境づくりをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中暖かな時期には玄関を放ち、陽気を取り入れると共にホーム前の公園の様子を眺められるように配慮している。居間にはその月に合わせた飾りや作品を入居者と作成し、掲示する事で季節を感じていただけるよう工夫している。	一般の民家を想定した造りで、多くの利用者は2階を居室としている。廊下にはベンチが置かれ、吹き抜けからは1階の話し声、炊事の匂いが漂い居間へ自然と集まるよう誘われる。1階の居間・食堂は明るく、温度、湿度、日射しも快く管理され、利用者とともに作る飾りが季節感を感じさせ、家庭的な温もりが溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、レクを楽しんだりする団樂のスペースの他にホームの各所に椅子を置き、思い思いに過ごしていただけるにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化によるダメージを少なくするために、入居時にできるだけ使い慣れた家具などを持ってきていただくようお願いしている。また、家具のみではなく写真や、ぬいぐるみ等も持参していただいている。	居室の入り口には、それぞれ親しみのある表札が掲げられている。部屋には馴染みのタンス、ベッド、テレビなどを持ち込み、家族写真や趣味のものを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。中には位牌を持ち込み、定期的に僧侶の訪問を依頼する利用者も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は2階に集中しており、吹き抜けから生活音が聞こえることで、音での確認や訪室しての安全確認に配慮している。まずは、自分で出来ることは自分で行ってもらえるよう状況の把握に努め、難しいことには支援を行う姿勢でいる。		